

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 214

このコーナーでは、隔月のシリーズで掲載
しています。これを手がかりに、家庭で人権・
同和問題について話し合ってみましょう。

『心に届きたい』

言葉のプレゼント

「あけましておめでとうござ
います。」この言葉を交わすと、
私たちは晴れやかな気持ちに
なり、一年を元気に過ごした
いという活力をもらいます。
言葉は、自分の気持ちや考え
を相手に伝える有効な手段の
一つであり、コミュニケーション
には欠かせないものです。

一方で、言葉は「使い方によっ
て花束にも刃物にもなる」と言
われます。相手を思いやる気持
ちであれば優しい言葉も『花束』
になりますし、相手の立場や人
権を無視した言葉は心にグサリ

と刺さる『刃物』になります。
私たちは、日常たくさんさんの言
葉を用いて生活していますが、
はたして言葉の持つ重要性を
きちんと理解し、大切に使用
しているのでしょうか。

言われて嬉しい言葉に『あり
がとう』があります。「ありが
とうの一言で、疲れが吹き飛ん
だ」というように、この言葉に
は、自分も人の役に立てたと
いう充実感が生まれたり、また頑
張ろうと元気づけられたりする
不思議な力があります。

『ありがとう』の反対の意味
では『当たり前』という言葉が
当てはまりそうです。人はお互
いに支え合いながら生きていま

すが、私たちは周りの人に支え
てもらっていることを当たり前
だと勘違いしている面があるか
もしれません。特に自分の家族
に対しては、照れくさくて感謝
の気持ちを素直に伝えられませ
ん。しかし、やはり『ありがとう』
の一言によって、お互いを思い
やる気持ちは育まれますし、家
族の絆はさらに強く結ばれるの
だと思えます。

『ありがとう』に限らず、私
たちは思いやりの気持ちを伝え
ることのできる言葉をどんどん
使いたいものです。例えば、困っ
ている人を見かけたら、勇気を
出して「どうかしましたか」「お
手伝いしましょうか」などの温
かい言葉をかけてみましょう。
寄り添う気持ちは、きつと相手
の心に届くでしょうし、1月の
寒い北風も少し温かく感じられ
るかもしれません。

『市老連芸能交流会』

12月10日、市民センターで
第16回伊万里市老人クラブ連
合会芸能交流会が開催されま
した。

この日は、午前と午後の2
部構成で行われ、市内老人ク
ラブの会員が、町ごとに、揃
いの衣装で踊りや詩吟、寸劇

が和やかに開催

などを披露。51組が日ごろの
稽古の成果を発揮し、多彩な
演舞を発表しました。

会員などで埋め尽くされた
会場からは、終始惜しみない
拍手が送られ、和やかな雰囲
気のなか、観客は心ゆくまで
発表を楽しんでいました。



↑会場を大いに沸かせた大坪会員
による寸劇『こぶとりじいさん』

郷土の文化財

史跡大川内鍋島窯跡④

● 問合先 生涯学習課
(☎ 233186)

江戸時代の鍋島焼生産体制

鍋島焼を生産していた佐
賀藩は鍋島焼の品質を保つ
ため、また、技術漏えいな
どによって鍋島焼の価値が
損なわれないよう、徹底し
た生産管理体制をとってい
ました。

生産地は、三方を極めて
険しい山で囲まれた大川内
山を利用し、人と物の出入
りを厳しく制限しました。
また、磁器の原料となる陶
石や釉薬の原料、窯たきの
燃料の薪などは、採掘場や
山林まで藩が直接管理し、
品質保持に努めました。鍋
島焼製作の職人(陶工)は、

もらい、名字帯刀が許され
るなど、特別な待遇を受け
ていました。

こうした鍋島焼の生産管
理体制を知るうえで、基本
資料となつているのが日峯
大明神(日峯社)石祠の刻
銘です。この石祠の台石に
は、鍋島焼の生産に関わる
役人や陶工などの役職・氏
名が彫り込まれていて、当
時の生産管理体制を知る貴
重な史料となつています。



↑大川内山にある日峯大明神石祠(中央)
と石灯ろう